

「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」

-世界で見つけよう、新しい自分。広がる未来-

令和6年1月応募受付開始！（予定）

- ・あなたが挑戦したいことをもとに、自分で計画を作る留学です。
- ・留学の授業料・活動費や留学準備金を支援します。（※支援には条件があります。）

生徒・保護者向け説明会

（大津会場）

日時：令和5年12月9日（土） <午前の部> 10:00-12:00

<午後の部> 13:00-15:00

会場：滋賀県大津合同庁舎 7D会議室（大津市松本一丁目2-1）

（米原会場）

日時：令和5年12月10日（日） <午前の部> 10:00-12:00

<午後の部> 13:00-15:00

会場：米原市米原学びあいステーション 2AB研修室（米原市下多良三丁目3）

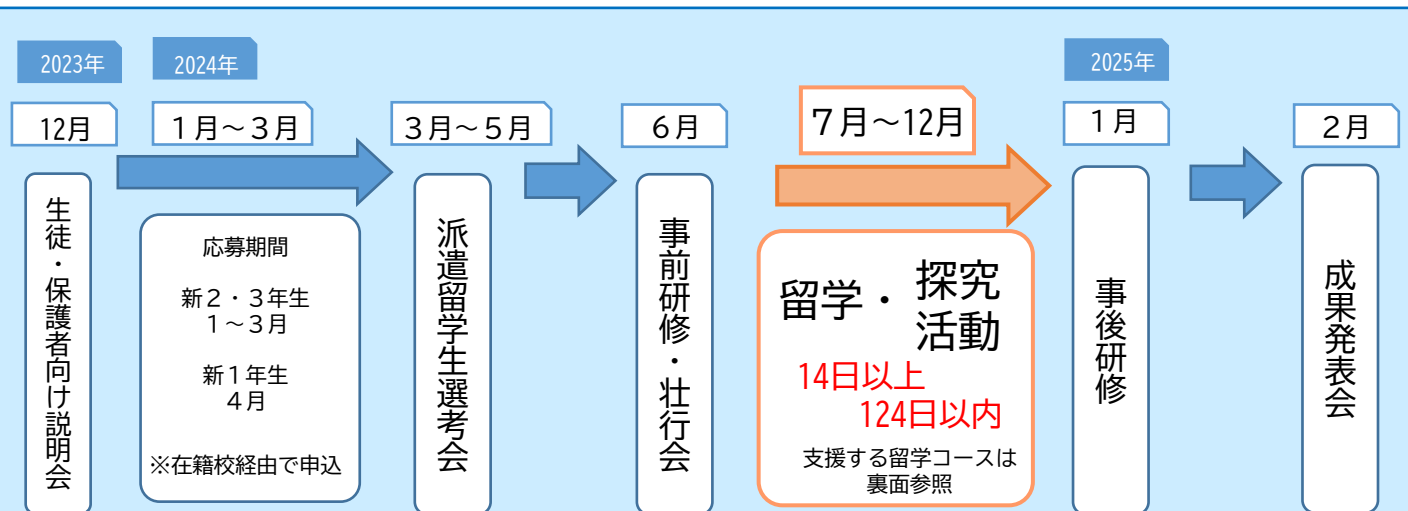
※どちらの会場も午前・午後とも同じ内容です。 説明会の申し込みはこちらから→
（しがネット受付サービス）



留学プログラムの流れ

年50人募集／令和6年度夏第1期生派遣予定

※募集要項は12月に滋賀県教育委員会のホームページに掲載する予定です。



滋賀県

お問合せ先 滋賀県教育委員会事務局高校教育課

メール: ma09@pref.shiga.lg.jp



「トビタテ！留学JAPAN」は、日本学生支援機構による官民協働海外留学支援制度です。

支援する4つの留学コース

マイ探究コース

好きなこと、得意なこと、挑戦してみたいことなど、自らの興味・関心や自分の中にある問題意識を起点として考えたテーマや課題を探究

社会探究コース

Society5.0やSDGsを踏まえ、世界・日本・地域が抱える社会課題を自分事として捉え、課題解決や貢献、活性化につながるテーマや課題を探究

スポーツ・芸術探究コース

自身が所属している部活動または学校外で取り組んでいる活動を活かし、発展や貢献につながるテーマや課題を探究

地域探究コース：MLGs探究コース

MLGsの13の目標から1つ、または複数選定し、関連する地域課題の解決や地域貢献に向けて探究

【4人を上限としたグループでの参加ができます！】

MLGsとは「Mother Lake Goals」の略称で、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能な社会へ向けた目標（ゴール）です。MLGsは「琵琶湖版のSDGs」として2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、独自に13のゴールを設定しています。（MLGsホームページ <https://mlgs.shiga.jp/>）



1 清らかさを
感じる水に
アオコや赤潮などのプランクトンの異常発生が抑制され、飲料水としても問題がなく、思わず触れたいような清らかな水が維持される



7 びわ湖のためにも
温室効果ガスの
排出を減らそう
日常生活や事業活動から排出される温室効果ガスを減らす取組が広がり、琵琶湖の全層循環未完了などの異変の進行が抑えられる



2 豊かな魚介類を
取り戻そう
在来魚介類の生息環境が改善し、資源量・漁獲量が持続可能な形で増加するとともに、人々が湖魚料理を日常的に楽しむ



8 気候変動や自然災害に
強い暮らしに
豪雨や渇水、温暖化などの影響を把握・予測し、そうした事態が起きても大きな被害を受けない暮らしへの転換が進む



3 多様な生き物を
守ろう
生物多様性や生態系のバランスを取り戻す取組が拡大し、野生生物の生息状況が改善するとともに、自然の恵みを実感する人が増加する



9 生産・産業に
地域の資源を活かそう
地域の自然の恵みを活かした商品や製品、サービスが積極的に選ばれ、地域内における経済循環が活性化し、ひいては環境が持続的に守られる



4 水辺も湖底も
美しく
川や湖にゴミがなく、砂浜や水生植物などが適切に維持・管理され、誰もが美しいと感じられる水辺景観が守られる



10 地元も流域も
学びの場
琵琶湖や流域、自分が生活する地域を環境学習のフィールドとして体験・実践する機会が豊富に提供され、関心を行動に結びつけられる人が増加する



5 恵み豊かな
水源の森を守ろう
水源涵養や生態系保全、木材生産、レクリエーションなどの多面的機能が持続的に発揮される森林づくりが進み、人々が地元の森林の恵みを持続的に享受する



11 びわ湖を楽しみ
愛する人を増やそう
レジャーやエコツーリズムなどを通じて自然を楽しむ様々な機会が増え、琵琶湖への愛着が育まれる



6 森川里湖海の
つながりを健全に
森から湖、海に至る水や物質のつながりが健全に保たれ、湖と川、内湖、田んぼなどを行き来する生き物が増加する



12 水とつながる
新しい暮らしを次世代に
水を敬い、水を巧みに生活の中に取り込む文化や、水が育む生業や食文化が、将来世代へと着実に継承される



13 つながりあって
目標を達成しよう
年代や性別、所属、経験、価値観などが異なる人同士、また異なる地域に住まう人同士がつながり、琵琶湖や流域の現状、これからについて対話を積み重ね、その成果を共有できる機会が十分に提供される